

# 碧水園能

## 喜多流公演

能清 きよ

経 つね

佐々木多門

和泉流

誓

富士松 ふじまつ

石田幸雄

平成28年2月14日(日)開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

白石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂

主催 碧水園能に親しむ会実行委員会

後援 白石市、白石市教育委員会

(協)白石市文化体育振興財団

白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇三三四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町二丁目二番二二号

入場料

正面補助席 脇正面指定席 5,500円

脇正面補助席 5,000円

自由席 4,500円

学生席 3,000円

(中学生以下無料 先着10名)

チケット取扱所

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※平成27年12月12日(土) 午前8時30分発売開始

電話受付 午前9時開始

「清経 佐々木宗生 所演」

# 碧水園能 喜多流公演 番組

解説 佐藤 陽

開演 一・三〇

仕舞

金札

塩津 圭介

地謡

佐藤 陽

呉服

佐藤 寛泰

金子敬一郎

和泉流

狂言

富士松

太郎冠者 石田 幸雄

主人 深田 博治

一・二五

休憩 十五分

一・四〇

能

清

経

シテ・平清経の霊 佐々木 多門

ツレ・清経の妻 友枝 真也

大鼓 柿原 光博  
小鼓 森 貴史

登 成田 寛人

附祝言

後見

塩津 哲生  
佐藤 陽

地謡

谷 友矩 金子敬一郎  
塩津 圭介 友枝 雄人  
大島 輝久 狩野 了一  
佐藤 寛泰 内田 成信

終演予定 三・四五

仕舞 金札(きんざつ)

民を守る誓いを記した札を示し、悪魔降伏・国土守護のために天下った、天津太玉あまつふとたま神の神威の舞。

仕舞 呉服(くれは)

呉の国より渡来し日本に織物を伝えた呉織(くれはとり)の霊が、めでたき御代を寿いで舞を舞い、錦を織って大君に捧げる。

狂言 富士松(ふじまつ)

無断で旅に出た太郎冠者を主人が叱りに来るが、富士詣でをしてきたと詫言ると許す。取ってきた富士松を要求する主人に、太郎冠者は酒を振舞い機嫌をとるが、主人は、連歌にうまく付けられなければ松を持っていくと言いつつ、次々と歌を読みかける主人に、見事に応酬する太郎冠者だが、中世の連歌の流行を背景にした狂言。

能 清経(きよつね)

平家の一門・左中将清経は、命運の行末をはかなみ、豊前国柳ヶ浦に身を投じた。その形見の遺髪と守袋を携え、家臣の栗津三郎が都に残された清経の妻のもとへ入水のことを告げに参上する。やりきれぬ悲しみと恨みに嘆きける妻、その夢枕に清経の亡霊が現れる。こころならずも戦に巻き込まれてゆく悲劇、運命のみじめさ。宇佐八幡の神託にも見放され、黒い不安だけが彼の中にあつた。月夜の船上で名残の笛を吹き、今様を朗詠して覚悟の自殺をはかったことを語り、修羅道の地獄の苦をも見せ、やがて仏果を得て消えてゆく。

清経は平重盛の三男で、横笛の名手であった。優美な才能を持った平家の公達の滅びゆく姿は、ひとしお哀れを誘う。夫婦の深い情愛と、その二人を引き裂く、戦争の不条理を描いている、世阿弥作の修羅物の名曲。

**会場のご案内**

白石駅 白石城 第二小学校 白石中学校 碧水園

白石市古典芸能伝承の館 碧水園  
〒989-0248 宮城県白石市南町2丁目1番13号  
電話・FAX/0224-25-7949